

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王北中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」の区分を除いて全国平均をやや上回り、一定の学力の定着がみられます。「話すこと・聞くこと」の領域においては、正答率がやや低く課題がみられます。
- ・数学の平均正答率は全国よりやや低く課題が見られます。特に「数と式」分野の知識や理解が弱い傾向にあります。その中でも、数量を文字を使って式に表すところに大きく難しさを持っていると考えられます。一方で、「図形」分野に関しては、全国の平均をやや上回っており、知識の定着が見受けられます。
- ・理科は、平均IRTスコアの全国平均をやや上回り、一定の学力の定着がみられます。特に元素記号についての知識・技能の定着が顕著でした。一方、身のまわりの事象から生じた疑問や、見いだした問題を解決するための課題を設定できるかどうかの問題で課題が見られます。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向が認められる項目
「先生は、あなたはよいところを認めてくれていると思いますか」「友だち関係に満足していますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」では、高い数値を示しており、良好な人間関係を築けていることが考えられます。「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目では、比較的高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いでは、2時間より少ないと答えた生徒が多く、「学校が休みの日に、1日どれくらいの時間、勉強をしますか」の問いにおいても、「3時間より少ない」とした生徒の割合が多く、さらに1時間より少ないとした生徒の割合がもっとも多く、家庭学習へ取り組む意識に課題がみられます。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・国語の授業においては、話すこと・聞くことの領域において、「聞き手を意識した話す力」を育むために、授業の中で話す機会を設け、話し方のモデルや話型の習得を促していきます。
- ・数学の授業では、既習事項の問題演習を繰り返し行うとともに、不正解の原因を丁寧に振り返る機会を設け、確実な計算力の定着を図っていきます。
- ・理科の授業では、既習内容をもとに、身近な問題の解決に向けた方法を個人で考えたり、小グループで協働的に話し合ったりすることを、各単元に応じて展開していきます。
- ・タブレットの活用なども含め、自分で学習する機会を増やし、自主学習に取り組む意欲を高めます。
- ・家庭学習への取り組みなどを継続し、家庭学習の定着を推進します。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭での学習の様子を気にかけ、子どもたちが自ら学習に取り組むことができるよう学習環境を整えるなどのご協力をよろしくお願いします。
- ・朝食の摂取、睡眠時間の確保等の生活習慣の確立について、引き続きご協力をお願いします。
- ・子どもたちの他者への思いやりや優しさを大切に育み、より良い人間関係を築いていけるようこれからもご協力をお願いします。